

〔科目名〕 経済導入演習	〔単位数〕 2単位	〔科目区分〕 専門科目
〔担当者〕 樺克裕、國方明、小寺俊樹、七宮圭、森統（あいうえお順）	〔オフィス・アワー〕 各教員より別途指示があります。	〔授業の方法〕 講義・演習
〔科目の概要〕 <p>1年次の春学期に「経済学基礎論」で経済学の入門的基礎固めが終了したみなさんは、これから経済学のさまざまな専門科目を学んでいくことになります。経済学が取り扱う問題はきわめて多岐にわたっており、その内容も高度です。したがって、将来どのような方向を目指して学習を進めていくのかをある程度見定めておかないと、大海原の中を無駄に漂流する如くなる恐れがあります。本演習は、目前にどのような世界が広がっているかを少しでも垣間見てもらうために準備されています。言い換えれば、本演習は経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けの役割を担っています。</p> <p>さまざまな専門分野を持つ5人の担当者が、それぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより、学生諸君の知的好奇心をできるだけ高めることを目的としています。各担当者は3回の演習を担当し、ローテーションをすることによって合計で3回×5人=15回の演習が行われます。なお、担当者の担当順序はクラスによって異なります。</p> <p>本年度は、第1回～第12回を3回ずつ4人の教員（樺・小寺・七宮・森）が対面授業で担当し、第13回～第15回は1人の教員（國方）が遠隔授業を担当します。</p>		
〔「授業科目群」・他の科目との関連付け）・〔なぜ、学ぶ必要があるか・学んだことが、何に結びつくか〕 <p>経済導入演習は、各教員の専門分野の入門編として授業が展開されます。内容は、2年生以降の専門科目と関連するものも多いので、今後の各自の履修モデルの構築(授業科目の選択)に多いに役立つはずですが。</p> <p>また、2年生秋学期以降は、経済演習が始まります。経済演習では、各教員の専門分野を基に、学生が演習の所属を自ら決めていきます。その決定の際に、経済導入演習の授業内容は参考になることが多いと思います。</p>		
〔科目の到達目標(最終目標・中間目標)〕 <p>経済導入演習で展開される各教員の専門分野の入門編の授業を通じて、2年生以降、学生が主体的に履修モデルを決定し、経済演習Ⅰの所属決定に際して、ゼミの内容について理解した上で、自発的に決定できるようになることがこの科目の目的です。</p>		
〔学生の「授業評価」に基づくコメント・改善・工夫〕 <p>クラスごとに授業のローテーションが異なるので、授業でローテーションについて示したいと考えています。また、採点基準についても各教員から明示します。</p>		
〔教科書〕 各教員より指示があります。		
〔指定図書〕 各教員より指示があります。		
〔参考書〕 各教員より指示があります。		
〔前提科目〕 特にありません。		
〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各教員が3クラス統一の基準で評価します。 教員毎の評価を合算して、全体の評価とします。		
〔評価の基準及びスケール〕 評価 得点比率 A 80% ～ 100% B 70% ～ 80%未満 C 60% ～ 70%未満 D 50% ～ 60%未満 F 50%未満		

担当教員: 樺 克裕	<p>〔テーマ〕 財政学入門 政府の経済活動である財政について、基本から説明します。</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 授業中にお知らせします。</p>
	<p>〔演習概要〕 政府の経済活動である財政は、経済活動の中で、非常に大きな役割を担っています。この演習では、財政の基本的な仕組み、租税、予算、国債等の説明、国と地方の財政の相互関連性等について説明し、テーマに沿って出題する課題を考えることで財政に対する理解を深めて貰います。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕 (テスト、レポート等) レポート課題で評価します。詳細は3回目の授業中に説明します。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 この授業は、科目の概要にもあります通り、今後の履修モデルや2年生秋学期から始まる経済演習 I の選択に関して、概要を示す役割を担っています。 私の演習を通じて、現在の経済学的な(特に財政学的な)課題について、解説しますので、学生の皆さんには、経済学の理論だけでなく、幅広く社会に関心を持って頂ければと思います。</p>
	<p>〔実務経歴〕 各教員の実務経験を活かし、具体的な経済活動の場を見学し、現実感を持って経済活動を理解したり分析したりすることに興味を持ち、経済学への学習意欲を高めることを目的とした授業です。</p>
	<p>〔教科書〕 ありません。授業は配布するレジュメに沿って進行します。</p>
<p>〔その他〕 なし</p>	
担当教員: 國方 明	<p>〔テーマ〕 経済学の多様性を体験する</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 まず対面の場合、場所は 525 号室です。日時は 525 号室の扉周辺に掲示します。 次に遠隔の場合、次の 2 点を設定します。 本学ポータルサイト「会議室」や電子メールで、相談に対応します。 電子メールで日時を調整したうえで、Zoom での相談にも対応したいと思います。</p>
	<p>〔演習概要〕 他の教員の担当回で、経済学に様々な分野があることを学びました。この多様性を、レポート執筆を通じて体験してもらいます。 (公財)日本経済研究センターのウェブサイトで、経済学者やエコノミストが、様々な経済分野についてコラムを執筆し公開しています(URLは https://www.jcer.or.jp/j-column, QRコードは本項目の最後、「日本経済研究センター コラム」で検索すると見つけやすいでしょう。)。 國方担当回では、課題を 3 回出します。各回の課題で、皆さんは次の(1)と(2)両方を行います。 (1) 上記(公財)日本経済研究センターのウェブサイトで、皆さんの関心あるコラムを各回 1 つ選ぶ。 (2) 次の①～③全てをレポートにまとめる。そして、本学ポータルサイト「課題管理」を通じて、レポートを提出する。 ① 各回選んだコラムの URL と著者名 ② 各コラムを選んだ理由。70 文字以上 100 文字以下。 ③ 各コラムを読んだ感想。100 文字以上 200 文字以下。 11 月 30 日(火)までに、学内掲示などで、課題にかかわる追加指示を行います。この指示に従ってください。</p>

	
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 課題への取組状況に基づき、皆さんを各回 10 点満点、3 回合計 30 点満点で評価します。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 本学ポータルサイトの「課題管理」及び「会議室」、並びに、電子メールなどで各種連絡を行う予定です。頻繁にこれらを確認してください。</p>
	<p>〔実務経歴〕 各教員の実務経歴を活かし、経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けとそれぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより知的好奇心を高める授業です。</p>
	<p>〔教科書〕 該当なし。</p>
	<p>〔その他〕 該当なし。</p>
<p>担当教員:小寺 俊樹</p>	<p>〔テーマ〕 医療経済学入門</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 初回の授業にて提示します。</p>
	<p>〔演習概要〕 医療サービスの特徴や日本の医療制度等について講義します。講義内容に関連した課題に取り組むことで、医療経済学について学んでいきます。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 授業内の課題、レポートで評価します。詳細は授業でお知らせします。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 配布資料を用いて授業をします。日本の医療の問題に興味を持って参加してもらえればと思います。</p>
	<p>〔実務経歴〕 各教員の実務経歴を活かし、経済学科の専門科目群を学んでいくための動機付けとそれぞれの専門分野に関連するトピックで演習を行うことにより知的好奇心を高める授業です。</p>
	<p>〔教科書〕 ありません。</p>
	<p>〔その他〕 ありません。</p>
<p>担当教員:七宮 圭</p>	<p>〔テーマ〕 経済学のための確率入門</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 509 研究室。曜日・時間は研究室前に掲示します。</p>
	<p>〔演習概要〕 統計学やファイナンスなどの経済学の科目で必要となる確率の基礎知識について講義します。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 各授業終了前に実施する小テスト。 病気等により欠席した場合は欠席届を提出してください。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 資料と黒板を使った講義を予定しています。 黒板の文字を書き写すことが目的ではなく、講義の内容を理解することが目的となります。</p>
	<p>〔実務経歴〕 なし。</p>

	<p>〔教科書〕 なし。毎回、資料を配布します。</p>
	<p>〔その他〕 なし。</p>
<p>担当教員: 森 統</p>	<p>〔テーマ〕 不確実性下の意思決定理論</p>
	<p>〔オフィス・アワー〕 507 研究室 日時については初回の講義時にお伝えします。</p>
	<p>〔演習概要〕 経済学で用いられる、不確実性の下での意思決定に関する理論に焦点を当てます。まず、その代表的な理論である期待効用理論について解説します。また、この理論に対する反例(アレ、エルスバーク)を取り上げ、それと同様の「思考実験」を実際に行いながら理論の妥当性を考察します。そして、近年、期待効用理論に代わる理論として行動経済学の分野で提唱されているプロスペクト理論について検討します。</p>
	<p>〔学修の課題、評価の方法〕(テスト、レポート等) 既存の理論や学説については、配付資料をもとに解説を行います。また、理論に対する反例(パラドックス)に基づいた簡単な仮想質問アンケートを実施し、その回答を提出していただきます。3 回目の講義時において、それまでの講義内容についての簡単な試験を行うか、レポートを書いて提出していただきます。成績評価は、アンケート回答の提出状況および試験またはレポートの内容で評価します。なお、試験の問題またはレポートの課題は本担当の最初の講義時間に示します。</p>
	<p>〔教員としてこの授業に取り組む姿勢と学生への要望〕 伝統的経済学の基礎的内容、その批判的展開を通じた新たな学問の動向をわかりやすく説くとともにその面白さを伝えられればとよいと思います。理論を検証するために、素朴な形のアンケートを実施しますが、受講生の方はその結果の考察を含め興味をもって真摯に取り組むことを望みます。</p>
	<p>〔実務経歴〕 実務経歴はありません。</p>
	<p>〔教科書〕 教科書は特に用いませんが、参考文献は演習時間中に示します。</p>
	<p>〔その他〕 特にありません。</p>